

J Rの業務外注化と非正規雇用化に反対するニュースです。感想や意見、現場の情報をお寄せ下さい。info@doro-shien.site

久留里線の廃線に断固反対して 動労千葉や地域住民が意見陳述

J R東日本の久留里線久留里～上総亀山廃線申請に関する意見聴取

動労千葉・関委員長の陳述要旨

第一に、ローカル線の廃止は、国鉄分割・民営化時の「これ以上のローカル線の廃線は必要ない」という社会的約束を踏みにじることで許されない。

第二に、鉄道はネットワークとして維持されてこそ本来の役割を果たせる。地方ローカル線が赤字になることは当たり前であり、「赤字」を理由にして廃線にしてはならない。鉄道を輪切りにして末端部分だけを「赤字」などと言うこと自体が間違いだ。「都市部だけ残せばいい」というなら、それは公共交通機関ではない。

第三に、バス転換はその前提を欠いている。運転手不足は都市部でも深刻で、4年後には3万6千人が不足すると言われている。国交省自身も「地域交通は危機的状況」と認めており23年度の路線バス廃止延長は2496キロに達する。

久留里～上総亀山間の転換後バスは1日13往復・2台運行が計画されているが、始発はそれぞれ5時45分と6時45分の発車、最終は21時55分と23時着の計画だ。加えて点呼・車両点検・運賃精算等の業務もある。運転手は最低でもフルタイムで6人、加えて運行管理者も必要。長期的に要員を維持し続けられる根拠がどこにあるのか。

「バス転換で便利になる」という宣伝は悪質な詐欺のようなものだ。J R東が20億円を「手切れ金」として地域を切り捨てる計画に断固反対する。

5月27日、J R東日本が行った久留里線・久留里～上総亀山間の廃線申請に関する意見聴取が、国土交通省により行われました。君津市や千葉県のほか、久留里線と地域を守る会をはじめ沿線住民、動労千葉・関委員長を含めて8人が意見陳述を行いました。

J R東日本に対し次々に怒りの声

君津市と千葉県の陳述は、「バスへのモードチェンジ」は久留里線・久留里～上総亀山間の廃線化を前提とした、地域住民の声を無視して踏みにじる内容でした。

その後、動労千葉の関委員長、沿線住民6名と君津市議が発言しました。

久留里線と地域を守る会の三浦代表は、君津市交通会議での協議が継続していることをJ Rが無視して廃線申請を出したことへの怒りと、久留里線存続を力強く訴えました。

亀山地区の住民は、この10数年で地域の小中学校が統廃合で失われ、過疎化が急速に進んでいることを明らかにしました。そして、久留里～上総亀山間廃止は過疎化をさらに加速するものであり、絶対に認められないと訴えました。

地域を踏みにじて廃線化を進めるJ Rの姿勢は職場で鉄道業務をないがしろにして現場を踏みにじる施策と一体です。

地域の怒りとともに、久留里線廃線反対の声をあげよう。